第１学年国語科学習指導案【改善版】

日　時　平成２５年１０月３１日（水）４校時
児　童　男子１６名　女子１５名　計３１名
指導者　菊　地　光　史

１　単元名　お話を読んで，登場人物にお手紙を書こう

２　教材名　「くじらぐも」　中川　李枝子　（光村図書　１年下）

３　単元の指導目標

【国語への関心・意欲・態度】

・想像を広げて物語を楽しもうとする。

【読む能力】

・物語の展開に即して，場面の様子の変化や登場人物の行動について，テキストや挿絵をもとに豊かに想像しながら読むことができる。〔Ｃウ〕

【言語についての知識・理解・技能】

・かぎ（「　」）の使い方を理解することができる。〔イ（オ）〕

４　単元を貫く言語活動の特徴

本単元を貫く言語活動として「くじらぐもにお手紙を書く」ことを位置づける。ここでの「お手紙」は，物語中の登場人物になり切って書くものであり，物語世界に浸りながら想像をふくらませることで書くことができるものである。これにより，登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと〔Ｃウ〕を実現するようにしている。

５　単元について

（１）児童について

児童はこれまで，指導事項Ｃウについて文学的な文章教材では「はなのみち」「おむすびころりん」「おおきなかぶ」「ゆうだち」などで学習してきた。「はなのみち」「おむすびころりん」に於いては，中心人物とその行動を捉えながら出来事を確かめ，児童はテキストと挿絵から場面の大体を理解する経験を積んできている。また，「おおきなかぶ」では，劇の活動を通し，場面や登場人物の行動を役割演技によって想像し物語を掴む学習を行った。「ゆうだち」ではそれに加え物語全体から好きなところを見つけたり登場人物にお手紙を書いたりする中で読者意識を持つきっかけとした。

しかし，物語の展開に即して登場人物の行動やそのときの思いを想像することが苦手な傾向がある。そこで，本単元では初めて学ぶかぎ（「　」）を生かし，それぞれが自分の思いを作品中に表現できるようにしたい。これが，次の文学的文章教材「ずうっと，ずっと，だいすきだよ」において登場人物の行動に関わらせながら主人公の思いや自分の経験を物語と結び付けながら感想を持つことにつながるものと考える。

また，昨年度の標準学力検査の結果から捉えられる本校の傾向は，正確な【情報の取り出し】をする力にやや欠けるということであった。１年生についても，同様の傾向を想定しこれまで学習を行ってきている。

（２）単元構成と指導にあたって

本単元では，「くじらぐもにお手紙を書こう」という目的意識を持たせ，登場人物と対話する楽しさを児童にとらえさせながら読み進めさせたい。本教材「くじらぐも」は，現実に即した世界から突然ファンタジーの世界へと飛び込み，大空を飛ぶというスケールの大きな物語であるが，児童にとって身近な体育の学習時間という設定により，登場する児童に対して親しみを持ちやすいものと考える。この物語の展開を自分に引き付けて読むことで，児童はより深く作品世界に浸り，物語を読む楽しさの新たな一面に触れられると期待する。その際に，テキストと挿絵から場面の様子，登場人物の行動を捉え，自身に置き換えてファンタジーの世界を楽しませたい。

第一次では，同じ中川李枝子作品を読み聞かせ，その登場人物に向けたお手紙のモデルを提示することにより，読書への意欲や「ゆうだち」で経験した手紙を書く活動のおもしろさ，単元全体の見通しを持たせたい。

第二次では，物語全体を把握するためにまずは挿絵から入り，物語の場所や時間，出来事のあらましをとらえさせたい。その後，物語の展開に沿って，１年２組の児童としてせりふを考えさせ，どうしてそう話したのかを想像させることを通して，自分はどう思うのか，自分だったら何を言うのか【熟考・評価】を常に意識しながら物語を読ませたい。それをもとに，場面の様子に応じた手紙を書かせる。その際には，児童の実態に応じて複数の手紙の様式を用意することで，場面の展開を確実に押さえた手紙にするとともに，叙述をもとに自分の思いや考えを書けるようにしていく。

第三次では，第二次に於いて作成したお手紙をもとに，並行読書してきた中川李枝子作品の登場人物に手紙を書かせることで，物語の場面に対する想像をふくらませながら読めるようにさせたい。そのために，常に児童に対して，物語のどんな場面か，どんな行動に対する感想かを考えさせながら手紙を書く活動に取り組ませていく。

6　単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・お気に入りの場面を見つけて，登場人物の行動や場面展開について，想像を広げながら読もうとしている。	・自分のお気に入りの場面について登場人物の行動や会話に着目して，想像したことや思ったことを手紙に書いたり，友達に紹介したりしている。〔Ｃウ〕	・登場人物の会話をもとに，かぎ（「　」）の使い方を理解している。〔イ（オ）〕

7　単元計画（全９時間）

次	時	主な学習活動	指導の手立て	評価
一	1	・「ぐりとぐら」の読み聞かせを聞いて，登場人物になり切ってお手紙を書くことを知り，学習計画を立てる。 お話（「くじらぐも」）を読んで，（くじらぐもに）お手紙を書こう。	・「くじらぐも」の同作者の作品にふれさせ，中川李枝子作品を読んで最後には読んだ作品の登場人物にお手紙を書いてみることを確認する。 ・「お手紙ポスト」を教室内に設置し，意欲の喚起を図った上で，お手紙のモデルを提示し，どんなことを書くのか考えさせる。	関お手紙を書いてみたいという意欲を持っている。
二	2	・「くじらぐも」の挿絵をもとに，場面の様子や登場人物の行動を想像し，お話を想像する。【情報の取出し】	・題名，作者，挿絵のみを提示する。 ・課題を書き換える（上部()部）。 ・挿絵を根拠として考えさせる。	読非連続テキスト(挿絵)からわかることを捉えている。
	3	・「くじらぐも」を読み，大体の筋と基本的な設定を確かめる。【情報の取出し】	・前時の予想ばなしと同じところや差異についてを視点として見る。	読物語のあらすじを捉えている。
	4	・くじらぐもと出会ったときや飛び乗るまでの様子を読み，登場人物になった気持ちでせりふを考え，手紙を書く。【情報の取出し】【熟考・評価】	・子どものまねをするくじらぐもを見た時や誘われた時，くじらぐもに飛び乗ることになったときの気持ちなどの自分の気に入った部分に沿って自分なりのせりふを考えさせる。	読場面の様子をもとに，１年２組の児童になり切って手紙を書いている。
	5	・くじらぐもに飛び乗ろうとする子どもや応援するくじらぐもの様子を読み，登場人物になった気持ちでせりふを考え，手紙を書く。【情報の取出し】【熟考・評価】	・輪になった時やがんばって飛んでいる時，風に飛ばされた時の気持ちなどの自分の気に入った部分に沿って自分なりのせりふを考えさせる。	読場面の様子をもとに，１年２組の児童になり切って手紙を書いている。
	6	・くじらぐもに乗った子どもたちの様子を読み，登場人物になった気持ちでせりふを考え，手紙を書く。【情報の取出し】【熟考・評価】	・海や村や町の方へ行った時や，歌を歌った時の気持ちなどの自分の気に入った部分にそって自分なりのせりふを考えさせる。	読場面の様子をもとに，１年２組の児童になり切って手紙を書いている。
	7本時	・くじらぐもと別れる子どもたちの様子を読み，登場人物になった気持ちでせりふを考え，手紙を書く。【情報の取出し】【熟考・評価】	・帰りの時間になった時やくじらぐもを降りる時，降りた後に見送る時の自分なりのせりふを考えさせる。	読場面の様子をもとに，１年２組の児童になり切って手紙を書いている。
三	8・9	・くじらぐもへの手紙を交流し，手紙の書き方を考える。 ・並行読書してきた本の登場人物に向け，お手紙を書く。 ・単元の振り返りをする。	・第二次での学習から，お気に入りの場面での自分の気持ちや感じたことを発表させる。 ・単元冒頭のモデルに戻りながら，物語世界の中に入った形でのお手紙が書けるようにさせる。	関自分の選んだ本について意欲的にお手紙を書こうとしている。 読友達のお手紙を読み，学習を根拠にしてお手紙の書き方を考えている。

並行読書

8　本時の授業（7／9）

（1）目標

くじらぐもと別れるときの登場人物になり切ってせりふを考えたり，お手紙を書いたりすることで，くじらぐもと出会えた子どもたちの喜びを想像することができる。

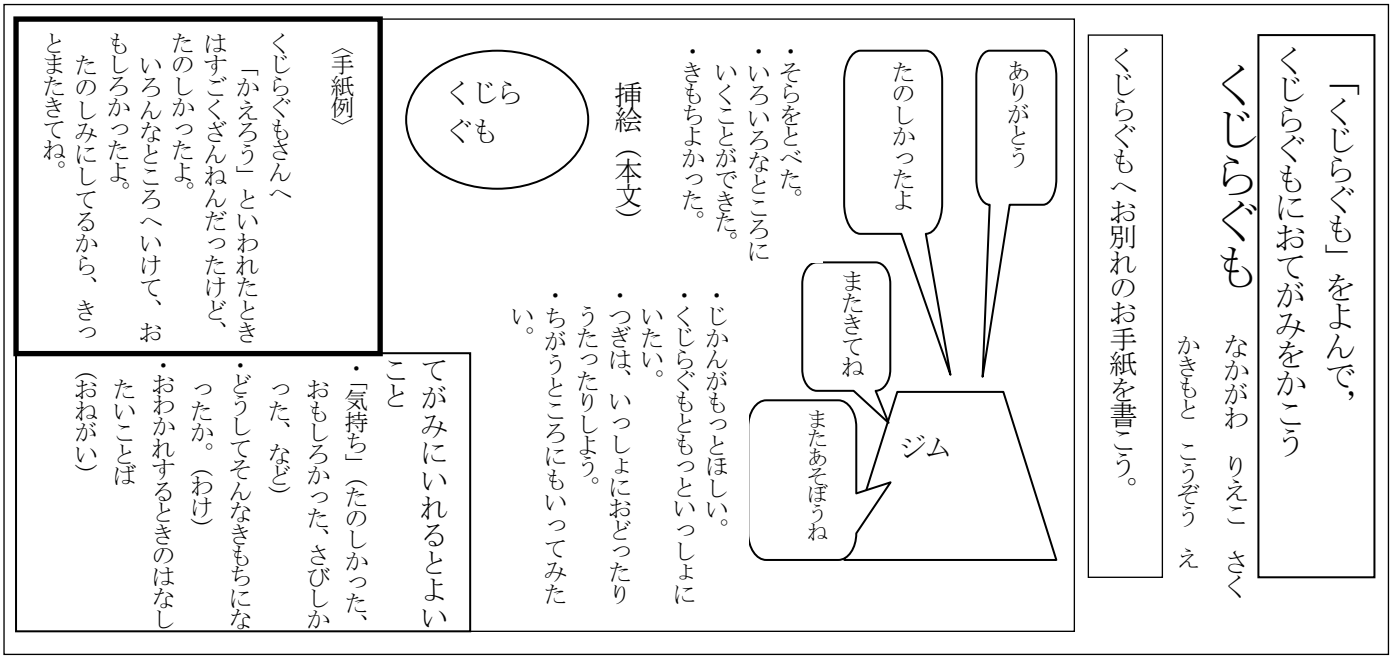
（2）展開

	主な学習内容と学習活動	指導上の留意点と評価（支援）
導入 5分	1　前時の学習を振り返る。 2　本時の学習課題を捉える。 くじらぐもへお別れのお手紙を書こう。	・前時の挿絵や児童の手紙を紹介して，くじらぐもに乗った喜びを想起させる。 ・単元を通した課題「くじらぐもにお手紙を書こう。」を確認し，前時の手紙を関連づけながら，本時の学習のイメージを持たせる。
展開 35分	3　音読し，お話の内容を確かめる。 ・誰が出てきますか。 ・場所はどこですか。 ・どんな出来事がありましたか。 【情報の取出し】 4　登場人物の気持ちを話し合う。 ○「では，かえろう。」と言われた時，子どもたちはどう思ったでしょう。 ○くじらぐもとお別れするときにあなたは何と言いますか。　【熟考・評価】 5　まとめの音読をする。 6　くじらぐもへのお手紙を書く。 【熟考・評価】 〈手紙例〉 くじらぐもさんへ 「かえろう」といわれたときはすごくさんねんだったけど、たのしかったよ。 いろんなところへいけて、おもしろかったよ。 たのしみにしてるから、きっとまたきてね。 7　お手紙を発表する。	・役割読みをする。 ・場面の中の登場人物の位置の変化やどうして帰ることになったか，くじらぐもはどこにいったかといった，場面の設定を確認させる。 ・くじらぐもに乗った楽しさを前時の場面の様子から具体的に確認させるとともに，先生の思いも想像させる。 ・初めに該当場面の音読を行い，場面の様子を確かめる。 ・何が楽しかったのか，何がうれしかったのかをといった，感じたことのわけを考えさせる。 ・吹き出しにせりふを想像させながら書かせる。 ・うまく言葉が浮かばない児童には，他の児童が話したことを参考にさせる。 ・できあがったせりふを黒板に貼り，どうしてそんなせりふが出ると思ったのか話し合わせる。 ・考えたせりふを交えながら音読できるようにする。 ・自分にあった手紙の様式を選ばせた上で，記述させる。 ・手紙を書き進められない児童には，くじらぐもとお別れするときのせりふの中から自分の書きたい内容を選ばせる。 〈評価〉 くじらぐもと出会えた喜びについて，場面の様子をもとに，せりふを話したり手紙を書いたりして登場人物の気持ちを想像している。 ・何名かの児童に発表させ，楽しかった根拠を確認させる。
終末5分	8　本時の学習を振り返る。 9　次時への見通しを持つ。	・登場人物になり切って書かれているかという観点で振り返らせる。 ・並行読書で読んできた本の登場人物に向けて手紙を書くことを知らせる。

（3）評価規準

	A　十分満足	B　おおむね満足	Bに至るようにするための手立て
読むこと	場面の様子と自分の気持ちを関係付けながら，登場人物の気持ちを想像している。	くじらぐもと出会えた喜びについて，場面の様子をもとに，せりふを話したり手紙を書いたりして登場人物の気持ちを想像している。	友達の言葉を手掛かりに，登場人物の状況やその場面に於ける気持ちを，例を挙げながら考えさせる。

９　板書計画



１０　指導案改善にあたって

本単元の学習を行い児童の実態から次のように改善を行った。

ア，言語活動の系統に関わって

・「お手紙を書く」という言語活動の学習効果の高まりを期待し，学習材「ゆうだち」に於いても「お手紙を書く」ことを位置付けた。

イ，本時の指導に関わって

・教科書に戻る場面が少なく，想像に頼り場面に合った思考にならない懸念があることから，主発問の前に音読を行い場面の様子を確かめるようにした。

・音読の技能に課題があることから，一単位時間あたりの音読機会を増やした。